

^{すなだ}砂田 さやかさん（山口県南総合支援学校勤務）

2017 年度 1 次隊 青年海外協力隊

派遣国：トンガ 職種：日本語教育

2021 年 2 月 7 日（日）中国新聞 SELECT 掲載

※中国新聞社の許諾を得ています



人とつながる意義学ぶ

2019 年 3 月に南太平洋にあるトンガから帰国し、山口南総合支援学校（山口市）に勤めている。手話を使いながら生徒・先生方との触れ合いや研修で多くを学ぶとともに、自身の経験から異文化や多文化共生社会について考えてもらう機会を提供している。



トンガの学校で試みた、ひらがなを記したカードを使った日本語の授業

17 年に青年海外協力隊の現職教員参加

制度で、トンガ・カレッジ・アテレに派遣された。生徒約 900 人の男子校である。日本語教師として、生徒や現地の日本語教師に日本語や日本文化を教えた。当時の生徒が今、日本の大学や高校にラグビー留学している。

世代間格差、言語や文化の違い、サイクロンによる被災など戸惑うことが多々あった。しかし、自分で決めて動きだしたからこそ、いろいろな人と出会えてつながることができ、他者に協力を求めることの重要性も再確認した。知り得なかった世界を互いに垣間見ることにより、周囲の人々にも視野を広げてもらった。

どこにいたとしても他者の全てを理解することはできない。しかし話し合うことはできる。言語や文化にかかわらず、何か起きた時にお互いが、ふに落ちるところを探す努力を一緒にできるかどうかが大切だ。

私が勤務する特別支援学校では一人の生徒に対し、教員・保護者・地域・福祉や医療関係者等の支援の輪がある。その輪をつなげ、つなげてもらえる自分であることを自問自答しながら、誰とでも協力して取り組むよう日々努めている。どんなささいなことでも真摯（しんし）に対応するよう心掛け、私に関係する人々の人生が豊になるよう、協力隊で得たものを還元していきたい。